

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立長浜幼稚園）

分 野	評価項目	評価の着眼点	自 己 評 価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評 価	評 価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○子どもたちにとって分かりやすい言葉や日々の生活の中でも大事にし、学級経営に努めた。 ○教育活動の中から園児の「幼児期の終わりまでに育てたい姿」を写真に収め掲示することで園児や保護者に啓発するとともに、学級経営の評価と指導に役立てた。 ○毎月の学級経営案の反省と実態に合わせた見直しをし、常に園児の実態を踏まえた教育を行うよう努めた。	4	4	○小規模園の強みを生かし、学年の目標を踏まえながら、一人一人の発達課題に即した指導を心がける。 ○生きる力を育むために多様な経験をさせる。そのために、地域の教育資源(ひと・もの・こと)も積極的に取り入れ、地域社会とのつながりを意識した学年・学級経営を行う。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	○一人一人のよさや課題など、ありのままの姿を丁寧に見つめることを大事にして保育に努めた。捉えの偏りがなく、職員同士が学年を越えて普段から情報を共有し相談して取り組むよう努め、指導方針を共通理解することができた。	4	4	○園児一人一人の課題を全職員が共通理解し、担任を中心に一体となった指導を行うよう努める。園児に関する情報が常に話し合われるよう心がけ、必要に応じて「子どもを語る会」を行い指導方針を確認する。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○配慮が必要な子どもについて、園内で情報共有したり、支援について検討したりしてきた。合わせて、就学先とも早い段階で連携を図り、保護者や就学先、園での密な連携に努めた。 ○特別な支援を必要とする園児についての巡回相談やケース会議を時機に応じて行うことで、園内だけでなく関係機関と共通理解しながら、きめ細かな指導をすることができた。	4	4	○今後も定期的な支援会議の実施、保護者や小学校との連携に努め、園児や保護者にとってよりよい支援に繋がるよう体制を整えていく。 ○就学に向け『年中児育ちの応援シート』等も活用しながら、早い段階からの就学支援に努める。そのために、特に小学校との連携を密にする。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○職員研修や保護者研修などを通して、自尊感情を高めるための援助について学び、園児一人一人の姿や思い、課題を丁寧に捉えた援助を心掛けた。特に課題については一人一人に合わせた援助をその都度考えて実践し、その子自身の進路保障に努めた。 ○教職員研修などに参加し、自身を振り返り、人権感覚の向上に努めた。	4	4	○職員自身の人権感覚を一層磨くために、積極的に研修に参加するなど自己研鑽に努める。更に、自分だけで留めず、園内で発信・共有し、よりよい職員集団の形成に努める。 ○一人一人の姿を肯定的に捉える温かい眼差しで園児を支え、一人一人の自己肯定感や他尊感情を高めていけるように努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○園児数は減少したものの、経験させたいことや一人一人の育ちを大事にしながら内容の工夫に努めた。大きな園行事は学年を越えて取り組むことが増えたが、職員全員で話し合いや協力を重ねて取り組むことができた。 ○園児数の減少に伴って、全学年一緒に活動せざるを得ない状況が増えたが、各活動の中で、学年毎のねらいを明確にして援助していくことで、学年集団としての発達を促す良い機会にできた。	4	4	○次年度は更なる園児数減少が見込まれるが、園の実態を踏まえつつも、必要な経験や育ちに繋がるように、その都度、内容を工夫する。 ○行事に至るまでの園児の意欲や努力の様子などを評価することで、自己肯定感を高めたり新たな目標に向かわせたりするよう努める。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○今年度は保幼小交流の日の実施に伴い、園児・保護者共に小学校の様子や雰囲気を知ることができた。就学に向け、支援学級の見学や情報共有の機会を1学期中に設けたことで、より密な連携に繋がった。 ○長浜地区人権同和教育研究指定事業との関りから、会合を中心に保幼小中連携(縦のつながり)や保幼小連携(横のつながり)の機会が増えた。特に幼小連携は、研究授業参加や就学に関わる学級見学等で連携が深まった。	3	3	○近隣の保育園の活動等の情報を積極的にキャッチし、同年代の子供が交流できる機会を増やしたり、職員研修等にも参加して、職員交流できるようにしつつ、情報交換がしやすい関係作りに努める。 ○年長児には、就学が楽しみるように園生活の中で話をしたり、小学校の段差を楽しみに上がっていけるよう日頃から一人一人の課題を捉えて支えたりしていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○保護者とは連絡ノートや日々の送迎時に子どもの育ちや様子を伝えたり、クラス便り等を通して学級集団の育ちや大切にしている担任の思いなどを伝えたりしてきた。定期的に伝えることで、保護者も意識したり家庭で話題にしてくださったりした。 ○日頃から、地域の方に積極的に声をかけるようにしたり、運動会や作品展などで、地域の方にも園の様子を知っていただく機会を設けたりして協力をお願いに努めたところ、新たな活動が生まれるなど連携が広がった。地域回覧用の園長だよりに地域連携の様子や幼児教育に関わる記事を載せることで、本園教育について啓発するよう努めた。	4	4	○園児数の減少により、人との関わりが限られたり、希薄になったりすることが懸念されるため、地域の方の協力も仰ぎながら不足を補っていく。 ○園の教育活動を保護者や地域に伝える際、相手に伝わりやすい工夫(写真の活用や文章のわかりやすさなど)を意識したり定期的に発信したりする。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○人権同和教育研究指定を受け、園の実態を踏まえて今年度より新たな研究主題を設定し取り組んだ。日々幼児一人一人について伝え合い、日頃の保育に生かすように努めた。一方で振り返りや分析などを丁寧にできるように定期的な研究職員会議の実施が必要であった。	3	4	○園内研究として、定期的な振り返りなどを職員同士で行い、深めていく。また、今後は講師を招いた指導を通して、学びをより深め自己研鑽に努めていく。 ○人権同和教育研究指定2年目を迎えるに当たり、保護者や地域、保幼小中との連携を堅実に行うために、園の取組の充実と発信に努める。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○自身の園務分掌を的確に行うよう努めた。職員同士の協力を促すとともに園務を計画的に行うよう、共同で行いたい仕事内容を書く告知板を作った。	4	4	○園務分掌の偏りを少なくしたり、行事が一時に集中しないようにしたりする。 ○日頃からコミュニケーションを取り、相談しやすい人間関係に努める。 ○計画的に業務が進んでいるか、中間で確認をし合い、滞り気味な箇所は分担を見直すなどして協力し、スムーズな遂行に努める。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○毎日の感染症対策を徹底したり、保護者から情報収集したりしながら、感染拡大防止に努めた。 ○避難訓練や引き渡し訓練、防犯教室を実施し、園児の安全意識を高めたり、職員の対応力を高めたりすることができた。 ○毎日の生活の中で気になることを、その都度職員で共通理解し危険防止に努めた。また、ニュース等で見聞きした事例を話題にし、本園での対応を顧みるようにした。	3	4	○一層、保健衛生に努め、感染症のまん延防止を図る。 ○預かり保育時間の延長開始を踏まえ、年度当初に、いろいろな職員体制時を想定した危機対応について検討し、有事に備える。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○普段から異状がないか気を配るとともに、月1回安全点検を行うことで安全管理に努めた。危ない箇所については、園児・職員へ周知徹底し、修繕を行ったり、修繕要望を出したりした。長年、要望を出していた園庭固定遊具の修繕に繋がった。	3	4	○引き続き、毎月の安全点検を行うとともに、違う目で、点検箇所の確認ができるよう、安全点検のローテーションを変えるなど工夫して実施する。また、日々の清掃活動や整備活動の中で、危険箇所の早期発見、早期修繕に全職員協力して努めていく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する